

DMO セミナー(ツーリズム EXPO ジャパン 2025)

D-NEXT 実施についての説明

公開日：2025年9月25日(木)

報告1 【小国町】 遠藤愛さん

地域の強み：上質なアウトドア体験を提供しているという評価は高かったが、豪雪地帯のため近隣の広域 DMO と連携し、冬と雪を楽しめるプログラムを開発することで解消する。

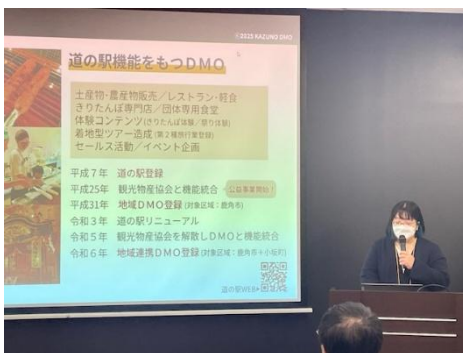
観光地域の連携：宿泊施設等の働き手の確保の評価が低く、アンケート回答の6割が49歳以下という状況から、若い世代のチャレンジを支援する施策に取り組んでいく。



報告2 【かづの観光物産公社】 佐藤さん

地域の強み：年間を通して多様な観光資源が存在しているが、冬季観光客数が伸び悩んでいるため、豪雪地方ならではの体験等で冬も楽しめる観光地を目指す。

観光地域の連携：労働力不足のため、きりたんぼ等の名物品の消滅リスクがあるため、D-NEXT の結果をもとに観光成長戦略の策定を行い、行政と連携しながら持続可能な観光地域づくりに貢献する。



報告3 【姫路観光コンベンションビューロー】 清永さん

地域の強み：観光消費額が低く滞在時間も短いため、ビジネスマンを対象にした地魚と地酒のキャンペーンを宿泊ホテルと実施した。また、宿泊が少ないことについて、姫路城をユニークベニューとして活用することで国際会議を獲得し、行政と大学との連携でフィルムコミッションを展開する。

観光地域の連携：観光産業が姫路の主幹産業ではなく観光に関する関心が低い
ため、日本観光振興協会の全国観光 DMP を活用して姫路城についてデータ分析を行い、地域経済効果などを示すことにより地域での合意形成を図る。また、おもてなし文化が低い
ため、姫路観光コンシェルジュを始動させ、地域のガイドたちと観光客が交流する機会を作り、観光客満足度の向上につなげる。



令和7年度の展開 地域の課題解決のお手伝いとしてのD-NEXT

日本観光振興協会 観光地域づくり・人材育成部 部長 北島哲也

3地域からの課題感について、小国町とかづの観光物産公社からは豪雪地帯特有の冬季のアクセスや需要減が提示されたが、雪は魅力であると同時にアクセスを阻むこともあるため、行政や事業者と連携しながら対策を講じる必要もあるだろう。また、姫路観光コンベンションビューローからは、姫路城が有名なため観光地と思われがちだが、重化化学工業が経済の中心のため、宿泊施設は必ずしも観光客向けのものとはなっていない現状が提示された。D-NEXT の実施を契機に、現状や課題、それらへの解決策について地域事業者や住民との対話を重ね、合意形成や地域連携を深め、事業計画の策定や観光地経営につなげていただきたい。今年度は伊予市観光物産協会および雪国観光圏にてモデル事業を実施し、課題解決のための方策をともに考えている。そして、次年度以降は地域の課題解

決に向けた、日本観光振興協会による伴走支援も検討しており、D-NEXT の実施による地域の課題解決に貢献していく。

